

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

名鉄クリーニング ボイラー設備ガス化事業

排出削減事業者名：株式会社名鉄クリーニング

排出削減事業共同実施者名：三菱UFJリース株式会社

その他関連事業者名：

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6-2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	7

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 名鉄クリーニング
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	(株)名鉄クリーニング 本社工場
住所	名古屋市西区貴生町3 1 2 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	三菱 UFJ リース株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

名鉄クリーニング ボイラ設備ガス化事業

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、クリーニング業務 設備機器等の熱源となっている

A 重油焚きボイラ設備を高効率ガス焚きボイラに更新し、省エネルギー化を図るものである

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油焚きボイラ設備を高効率ガス焚きボイラに更新し、エネルギー消費量を削減するとともに、CO2 排出量を削減する。

(新規ガス焚きボイラ2tを4台導入し、前稼動中のA重油焚きボイラ6tを予備機とし前予備機4.8tを撤去する)

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2008年12月16日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2008年12月16日～2009年3月31日 (2008年度)

2009年4月1日～2010年3月31日 (2009年度)

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

本削減事業においては活動量・原単位は用いない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

本事業のバウンダリーは、本社工場のクリーニング工程に供給する蒸気熱源施設である。対象施設については、「排出削減事業計画 2. 5 排出削減事業に関わる設備」に示す。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
Ffuel,pj M-1	都市ガス使用量	Nm3/年	(2008年度)146,375 (2009年度)603,601	ガス供給会社の使用量データ	
HVfuel,pj M-2	都市ガスの単位発熱量	GJ/Nm3	0.0448	デフォルト値 (東邦ガスの単位発熱量より)	
E pj M-3	更新後のボイラ効率	%	86.4% (高位発熱量)	カタログ値より算定	
CFfuel,BL M-4	A 重油単位発熱量当りの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0189	デフォルト値	
CFfuel,pj M-5	都市ガス単位発熱量当りの炭素排出係数	t-C/GJ	0.01359	デフォルト値	
M-6	A 重油燃料使用量	ℓ/年	0	実測計測値 (ボイラー日報)	

6 モニタリング体制

6-2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類		QA/QC 手順
活動量		
事業実施後のガス使用量の確認	東邦ガス(株)からの使用量報告書(請求書)/月 1 回を元に月報へ記録する	
単位発熱量		
都市ガスの単位発熱量	方法論のデフォルト値に変更がないか確認する	
排出係数		
A 重油単位発熱量当りの炭素排出係数	方法論のデフォルト値に変更がないか確認する	
都市ガス単位発熱量当りの炭素排出係数	方法論のデフォルト値に変更がないか確認する	

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
(2008 年度)146,375	0.0448GJ/Nm ³	0.01359t-C/GJ	326.8 t-CO ₂
(2009 年度)603,601	0.0448 GJ/Nm ³	0.01359t-C/GJ	1,347.5t-CO ₂
EM _{pj}			1,674.3t-CO ₂

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
(2008 年度)207.0kL	39.1GJ/kL	0.0189t-C/GJ	560.9t-CO ₂
(2009 年度)853.6kL	39.1GJ/kL	0.0189t-C/GJ	2,312.9t-CO ₂
EM _{BL}			2,873.8t-CO ₂

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
(2008 年度)			0t-CO ₂
(2009 年度)			0t-CO ₂
LE			0t-CO ₂

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	CO2 排出量
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	2,873.8t-CO ₂
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{Pj}	1,674.3t-CO ₂
リークージ排出量 (7.3)	LE	0t-CO ₂
温室効果ガス排出削減量	ER	1,199t-CO ₂

8 省エネルギー量

原油換算		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン－ 実績 (①－②)
1069.9 kL	866.9 kL	203.0 kL

$$\underline{\text{省エネルギー量}} = 1069.9 \text{ (kl)} - 866.9 \text{ (kl)} = 203 \text{ (kl)}$$

(参考) 再生可能エネルギー利用量

原油換算 (実績)